

選択の国の

ソロイスト

独唱者





この国は他国から
性別に対する意識が
薄いなんて言われるけど...

それは強さと思ってます...
むしろ

自分の心で「選択」する分
覚悟は他より強いかもしれない



それこそ生背負い
続けることになる

：自分の選択を



己で選んだからこそ責任も後悔も全て自分で引き受けなきゃいけない...そう思うぞと

この歳で「無性」を僕たちは人倍怖がりなのかもしれないね...

とくろで

植物塔は般生徒立ち入り禁止だクラスと名前を言え

...あんた...クラスで結構浮くタイプだろ...

ニヤニヤ...

僕はそいつの名前を知っていた——

けれど何故だか本人に名乗らせ
たかったのを覚えてる…
つまりこの僕は——

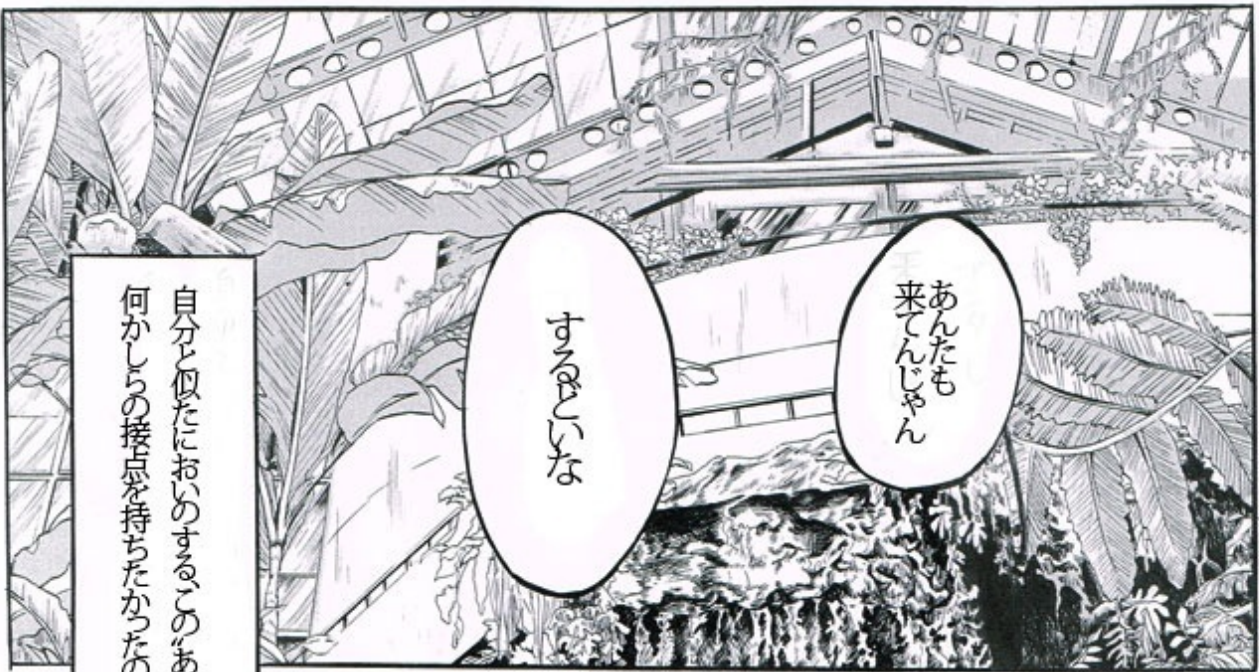
初対面に
失礼だな

初対面でいきなり長々と
語り出すあんたに言われ
たくないけど

……

まあ…
どうでもいけやが…
2-Bの音無だよ

それと
立ち入り禁止で



あんたも
来てんじゃん

するどいな

自分と似たにおいのするこの「あぶら」のど
何かしらの接点を持ちたかったのだから

それが、半年前のこと

キーン
コーン

おい、その
エセ風紀委員!!

どうだ!
今日こそ私は
完璧だろう!!

キーガミ、ソイヤチカ
ぬかりない!!

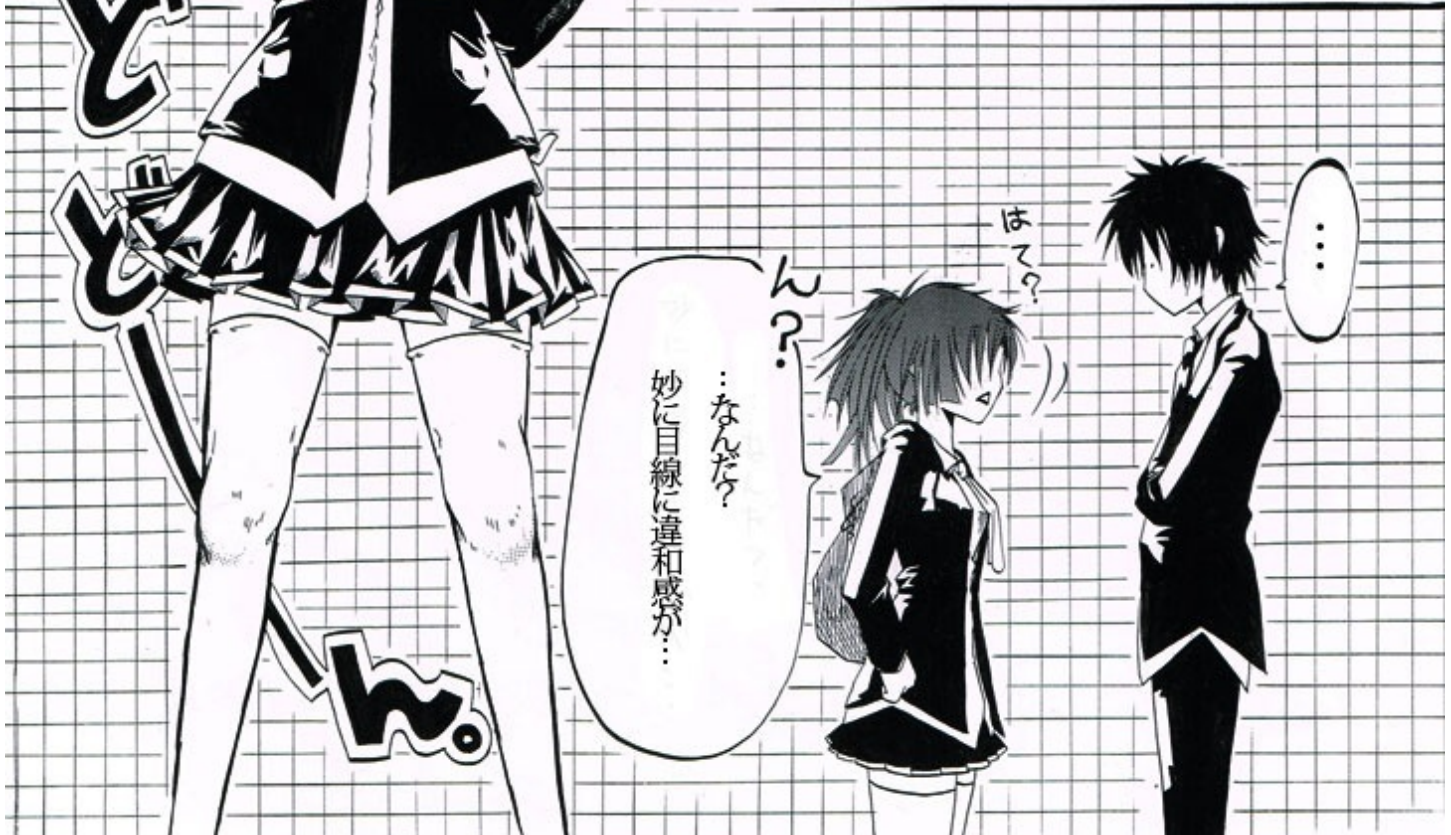


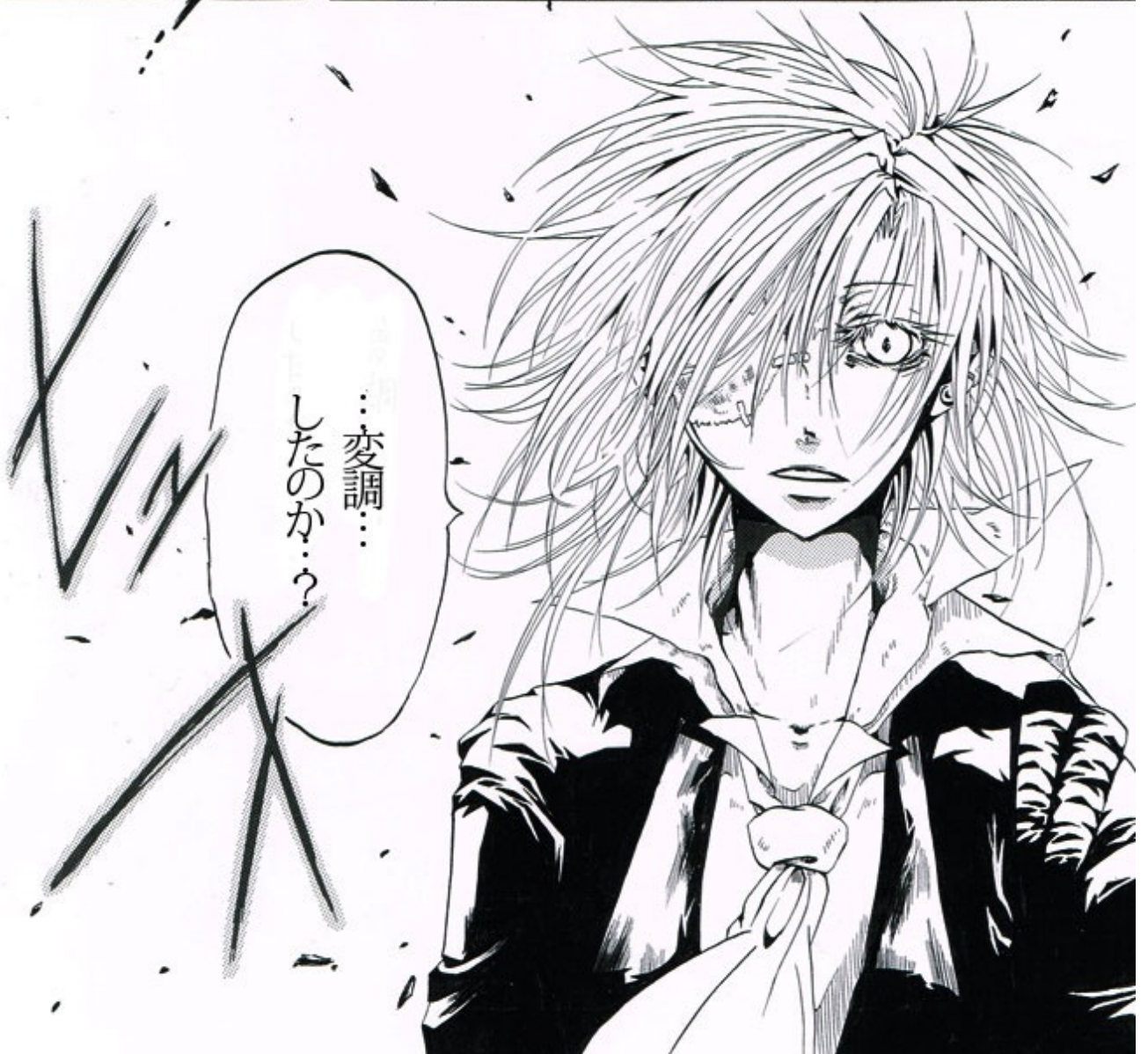
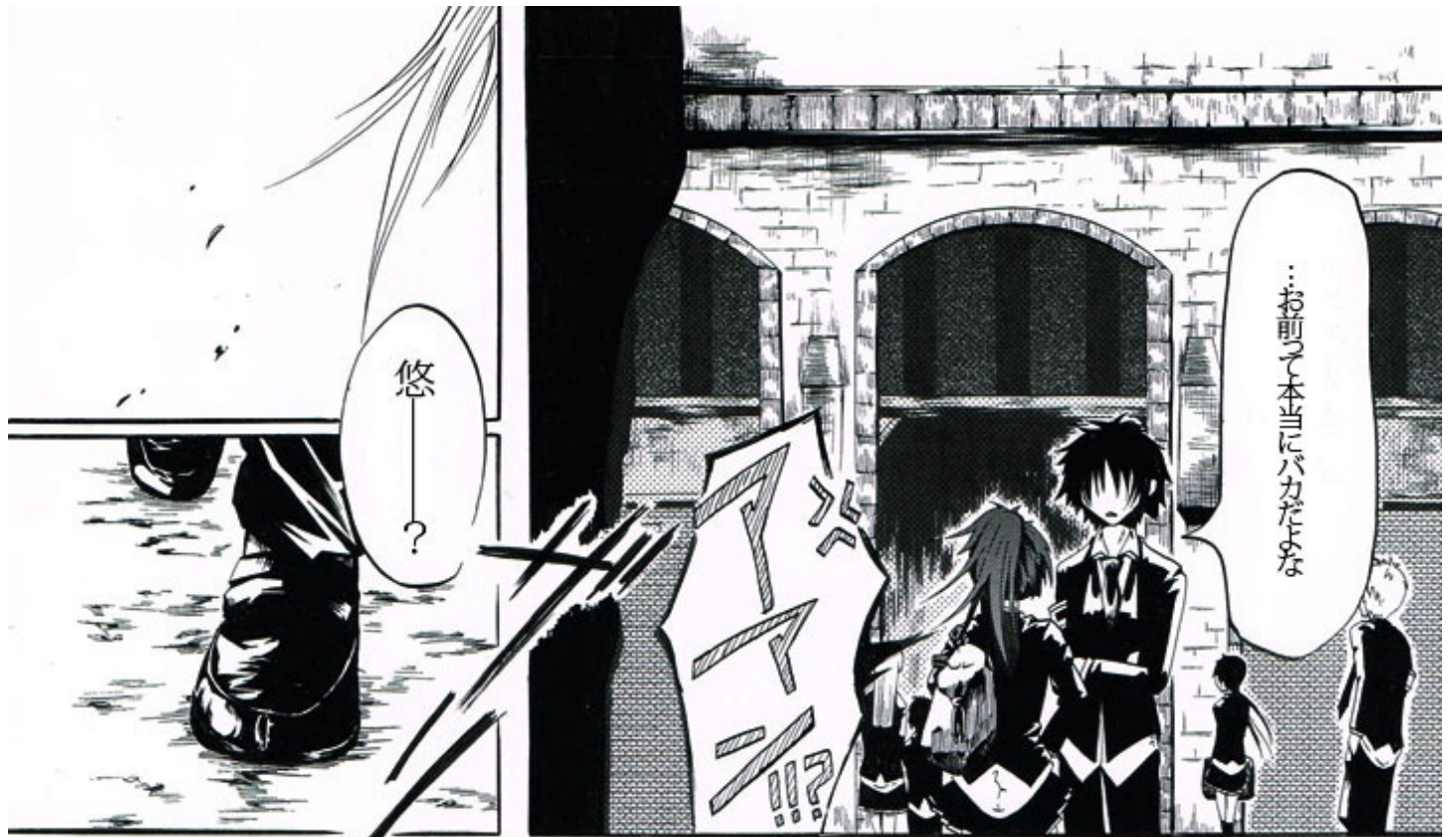
…なんだ?
妙に目線に違和感が…

ん?

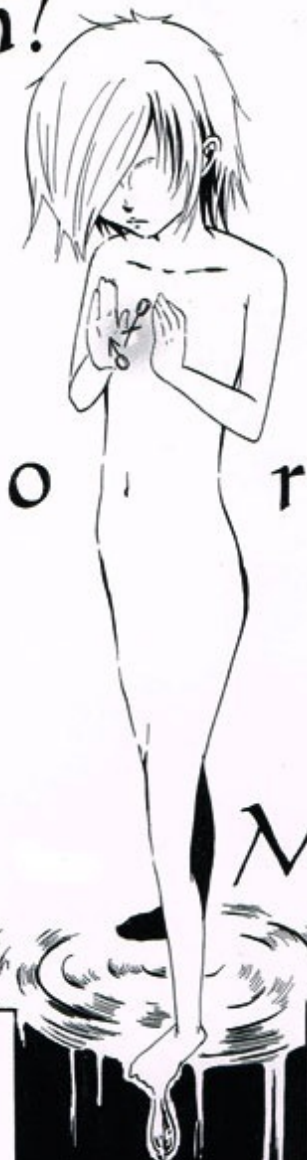
ほこ?

…





Woman?



成長期の種である「変調」

それが訪れるまでは「無性」（下）として生きる

Man?

本来は神が行う采配——

それを自らの心でなすこと
からこの国は「選択の国」と呼ばれている

このメカナムは未解明の
部分が多いが、思春期に性別
を確定する人間が大多数な
ため「恋心」や「愛情」といった

その類の心の変動によって本人の
願望に沿った変態をするという
説もある

Choice

この国の人間は幼少期、
性別というものが存在しない





賭けっつーか
アハハハハ
アハハハハ

賭けっつーか?

向に「変調」の兆しが現れない
ものもある

じゃあ賭けは
こちらの勝ちで

だが稀に、何かしらの要因で

シラ

シラ



アハハハハ
アハハハハ

…アంత達つてときまじき
本当に阿呆だね

人類記録への挑戦

ボクたちいつまで
ピーター・オン?

子供料金まで割引されるか

この国は性が確定する前は「子供」扱いなので公共施設などの料金が安いのだ!!



ちなみに敗者は
こちらのものを
気飲みします

- 初め下人になった
- 君のためのレシピ
- コーラ、コーヒー、緑茶
- 醤油、みりん、味噌
- ラーメン、ウイーンゼリー
- 野菜ジュース、レドール
- 果ごまジュース、etc
- 以上で後しくまざる

鬼とんだ

そとをほし勝たず
人類記録したんやないのか

おんごん
おんごん



…負ける原因になった
感情を…

お前は知らないだろうな。

聞いたか？
風紀員の神久呂のこと

ああ、ようやく
「変調」がきたらしいな

これで「無性」もついた
音無だけになったわけか

どうも悠の話題で
持ちきりだなあ…

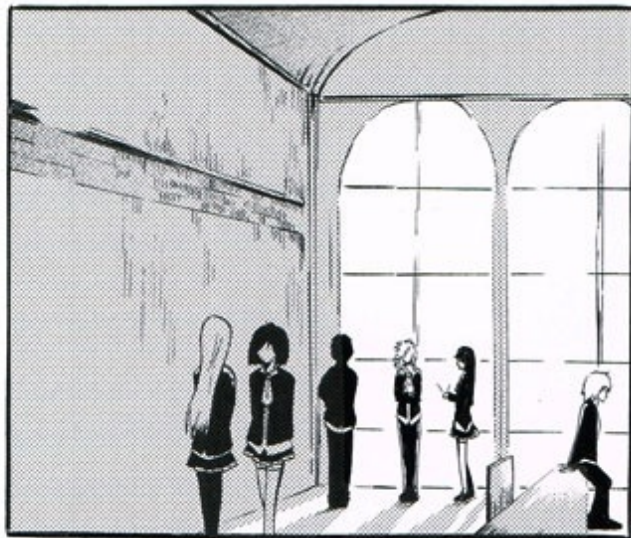
まあ私も
驚いたけど…

オトナシツリ
私と音無織は幼馴染み。
幼稚園のときから一緒に
いるから、もう10年以上の
付き合いだ

だから、何となく察している



綴に「変調」の兆しが、向に訪れない理由を



あれは一度、中等部上がったとき

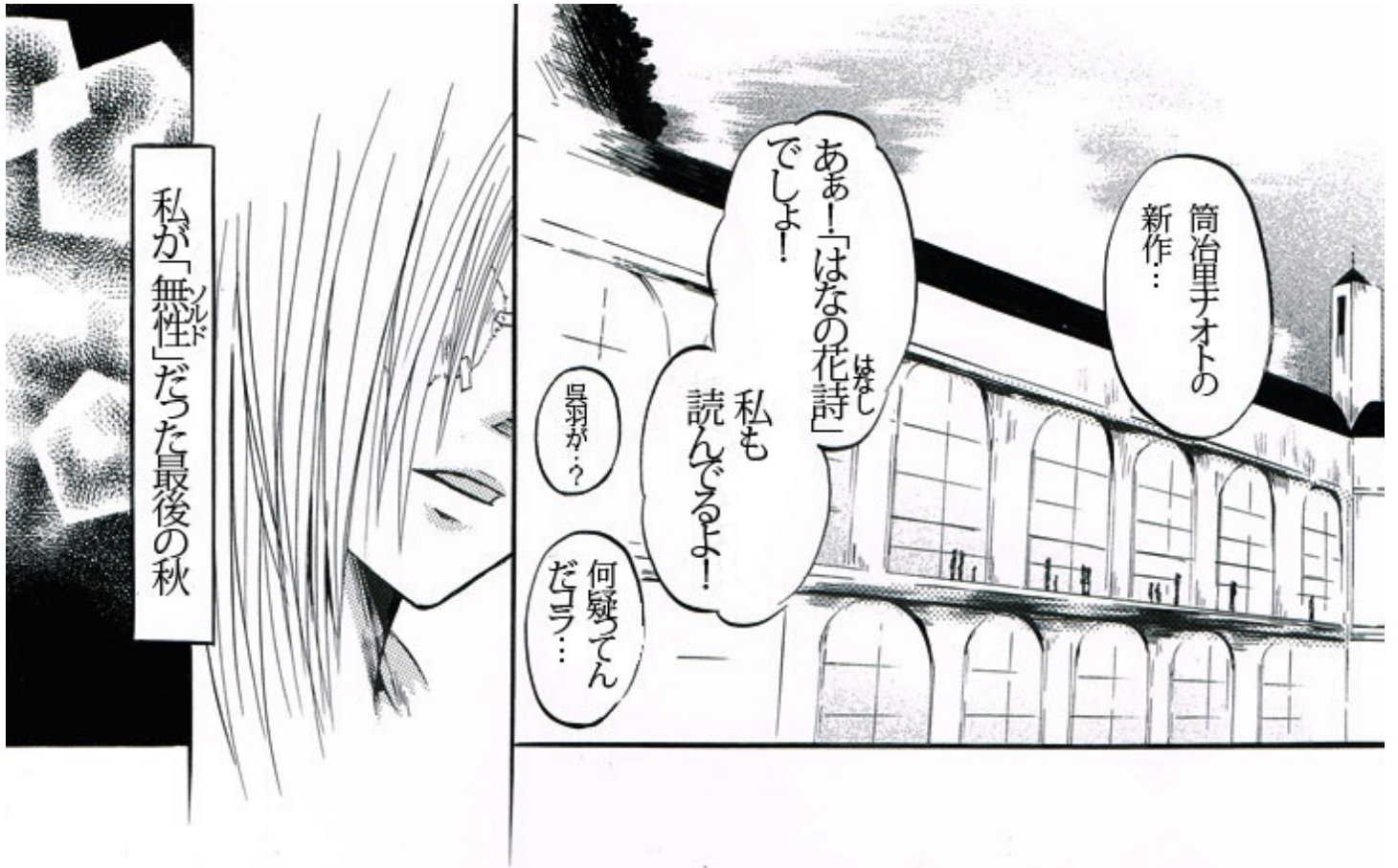


また小説？
今度は何読むの？

呉羽！

綴





私が「無性」だった最後の秋

筒治里ナオトの
新作…

ああ！「はなの花詩」
でしょ！

私も
読んでるよ！

早羽が？

何疑ってん
だコラ…

けれど、学年が上がると全寮制に
なったことにより、
寝食を共にするようになるよ…

答えはすぐにわかった

綴の右眼について、本人に聞いた
ことはなかった
何だか触れてはいけないことの
ように感じたから…

綴は長い間 親から虐待を受けていたのだ



その事実にもまったく気付かなかった
自分に憤り、泣いた

そして私は感情のまま綴に
「どうして言ってくれなかった」と
つめよめたのだ



けれど



あの笑顔の意味を、私はいまだに
探している

そっぴやあ私の「変調」は周囲が
かなり戸惑ってたなあ…

そっぴえは
呉羽…

男勝りだ、たから
まじか女なるとは…





っふ

一股あゝ!?

どこの誰が!?

つてお前かよッ!!



真横がそんな
人だらたなんて...

ち、違つよ!

本当に二人とも
大好きなんだもん!

いや...だもんで
アンタそれ...

だからどうしたら
良いかみんなに...

ダメなのか?

同じ事でも複数
好きになるのはダメな
ことなのか？

ダメで…そりゃあ
不誠実でしょ？物じゃ
ないんだから…

物と人はそんなに
違うのか？

え、当たり前

じゃあどこが
違うんだ？

二人好きになるって
そんなにダメなのか？

え？



.....
ねえ、ちよと聞いていい？



.....
かみゆいひまな



.....
僕からすれば

簡単なことだな..
お前たちはそもそも根本がおかしい



え？



お前は馬鹿だからな

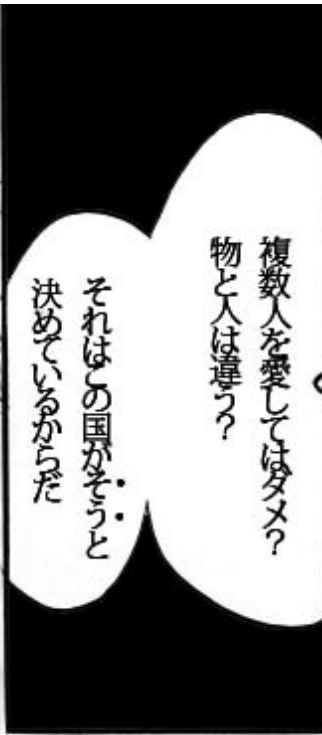
前から思ってたけど
お前私のこと嫌いだな？



正直、綴になんて返したら
いいかわからなかったよ..



あとほ本人の
心の在り処次第...



複数人を愛してはダメ？
物と人は違う？

それはこの国がどうと
決めているからだ



まあ馬鹿なお前に
理解しろとは
言わないが...

お前やっぱ私の
こと嫌いだな!?



所詮人を支える価値観
なんてそんなものだよ



...どうか



いいか?

物事に潜在的な
正しさなんてない

そんなものは

思想

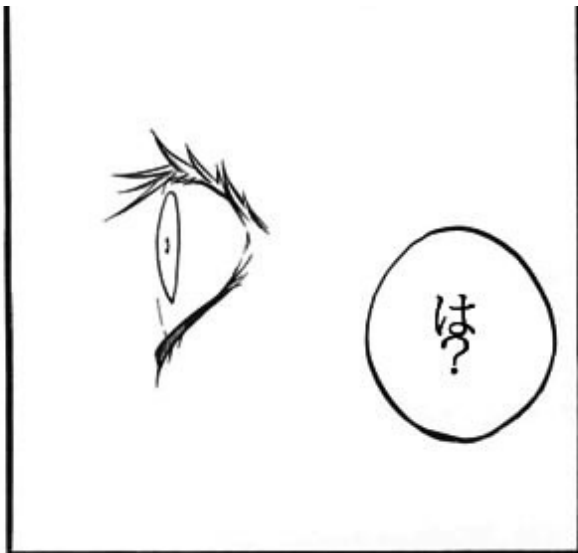
国家

民族

宗教

教育

何らかしら外からの干渉を
受けて後付けされるものだ



悠が突然「変調」したのって…！
綴のこと…！

なんだ
今更気付いたのか

綴を…

綴を守りたくて男を
選んだの…!?

守りたくて？

ははっ…そんな高尚な
理由で僕の心は「選択」
してないだろうさ

そうだな…
理由があるとするれば

綴を好きなお前が
“女”だったからだ

正直僕は綴が女になろうが
男になろうがどつでもいい

ただその価値観をこの国は
許さない

だから分かりやすいようにと
この国に合った形を心が選択
したんだろっ…お前と逆の
ものになるよ、エミル

「どっちか選ばれるか
明確にするために」



な

なんだよそれ!!

そんなの綴を試してる
みたいじゃんか…!

お前がどう思うかは
勝手だが

僕は戦う気がない奴に
譲りやるほどお人よし
じゃないぞ

お前は度も考えたくと
がないのか?

もし綴が

私は…





多分ずっと前から望んでいた

…
違うな…



ぎゅ

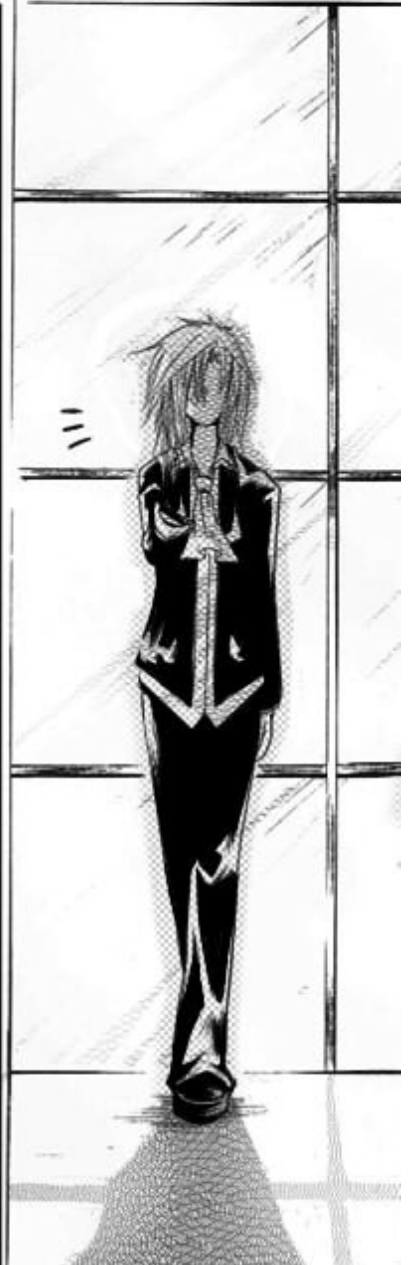
ただ傍にいれば…

本当に…？

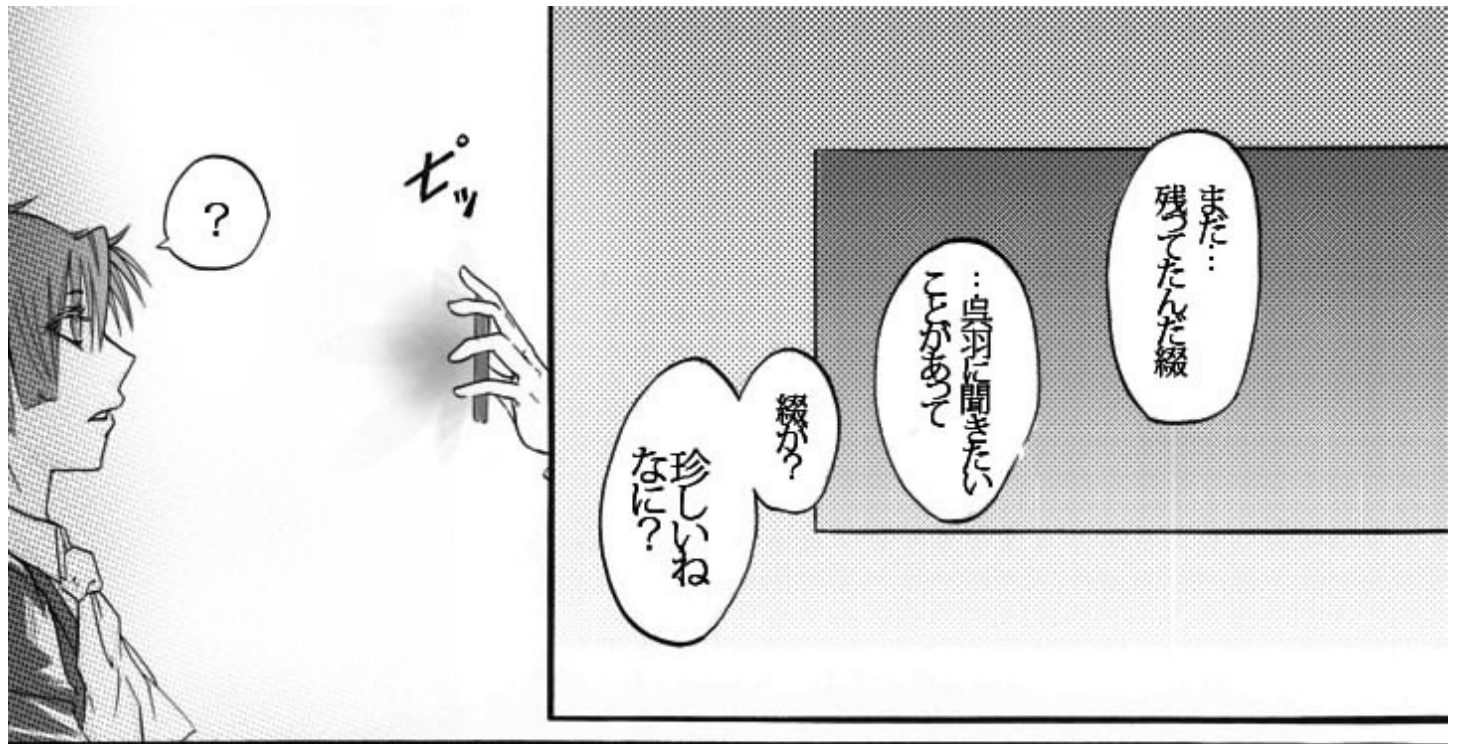


昌羽

綴が私と緒にいるために
「男」を選んでくれることを



三



また…
残ってただ綴

…白羽に聞きたい
ことがあつて

綴が？

珍しいね
なに？



男には
花の言う

『好き』の意味が
わからなかつた』



「はなの花詩の節…？」

自分の引いた白線から出た
ことのない男は、それを
理解するだけの経験がない

それでも男はその花を美しいと
思ったし、大切にしたいと、
傍に居続けた

願うことでもないので、星に向かつて
毎晩祈っていたのだ。だから男は
花の言うことを理解できないまま

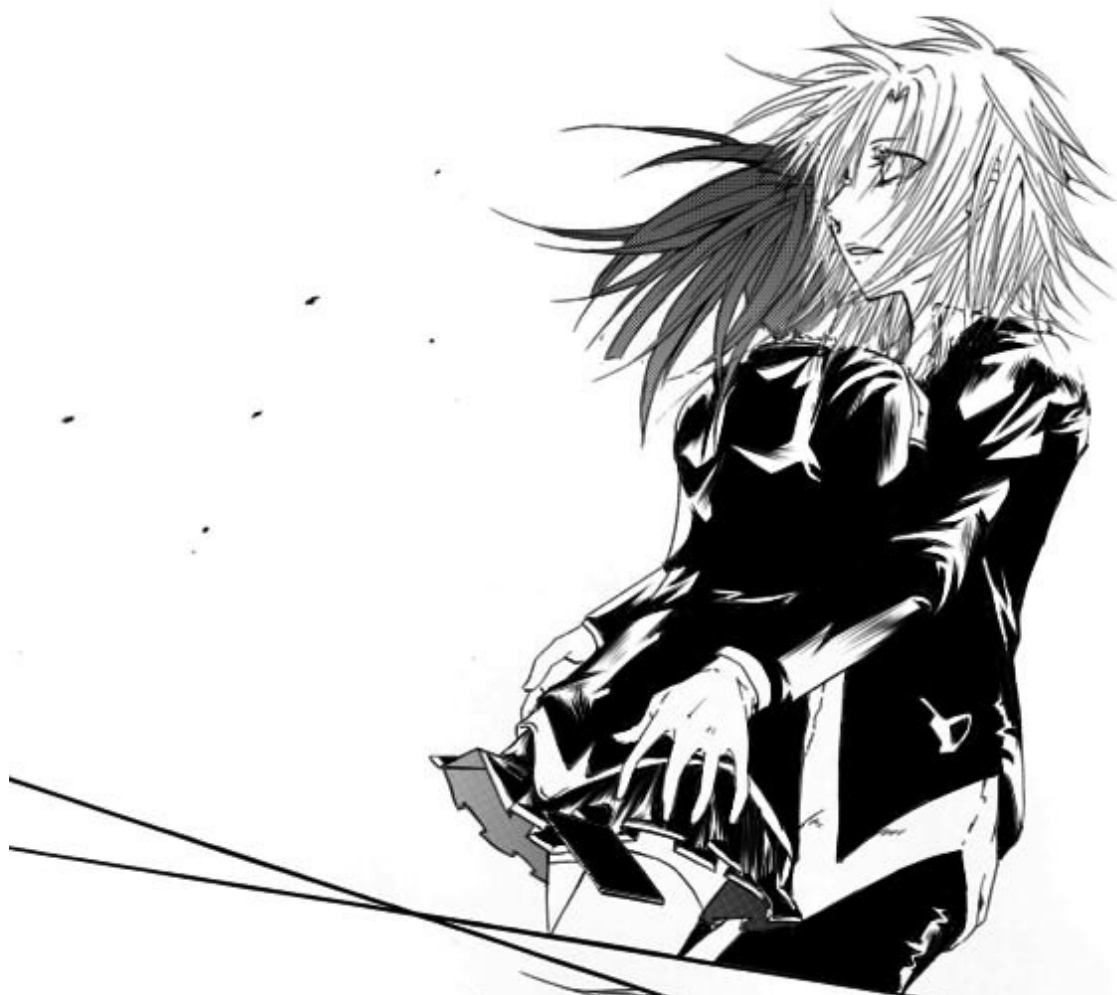
呉羽は…相手の言う
「好き」の意味を
理解できないまま

それでも傍にいたいと
願えるものだと思うか？

考え方も価値観も違うのに、
そんな曖昧な理由で
傍にいたいと…

…そういつてして現実
に起るものだと思うか？





呉…羽？

でもダメだった…！

傍にいただけじゃ…
私を見て欲しいって…！
一番が良いって…！

押し付ける気なんかないと
思ってた…ずっとずっと親友で
いれればって…！！

でも違った…！
違った…！！

私…女として
綴が好きだよ



願うことでもないので、星に向かつて
毎晩祈っていたのだ

だから男は、花の言うことを
理解できないまま、その美しい花弁に
口づけをした





ハグ

…それは
違っよ



…違っ

わかっているよ…多分
綴が思ったこと…

アンタ
優しいもん

でもダメだ

好きっていう感情は、
誰かに合わせるものじゃない

心が求めて自然に
生み出されるものだよ

私はそう思っている…
だから

綴からそのキスは
受けられない

黒羽の…
傍にいたいと思ってるよ

だしたらあなたから私の「好き」を
便乗しないで...

綴だけの想いを見つけて...

見つけたその時に、
まだ私の傍にいたいって
思ってくれたら...

そのときにキスをして



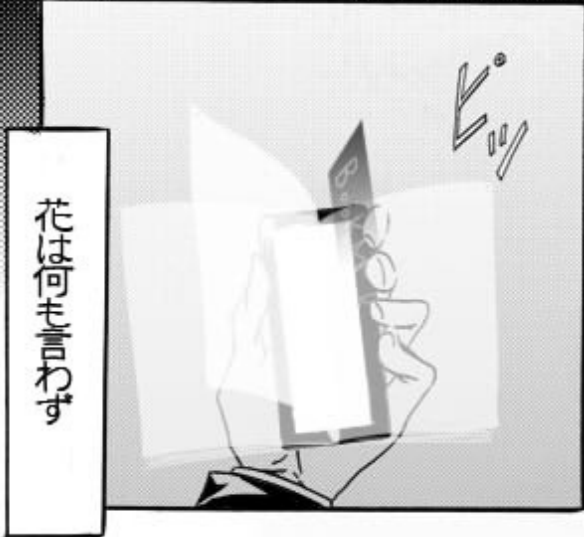


…うん

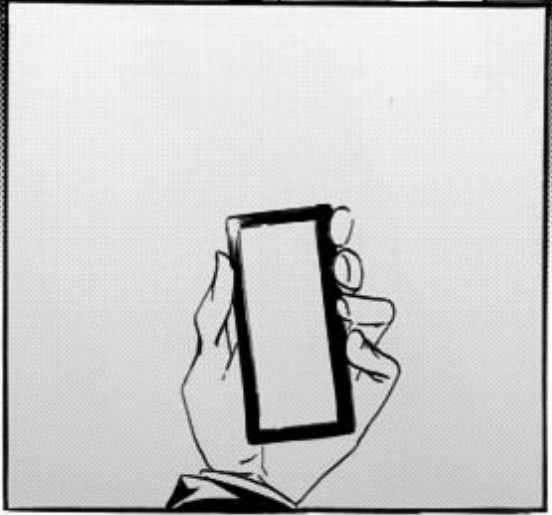
明日ね？
また…

ごめん

あふ



花は何も言わず



一度も開けることは
なかった…
——そして翌朝、

結局その日は、普段
おしゃべりな口を



花…

花は枯れていた

なみで
枯れたのかな



男はいつもの時間に
いつもの足取りで

花に水を与えに来た

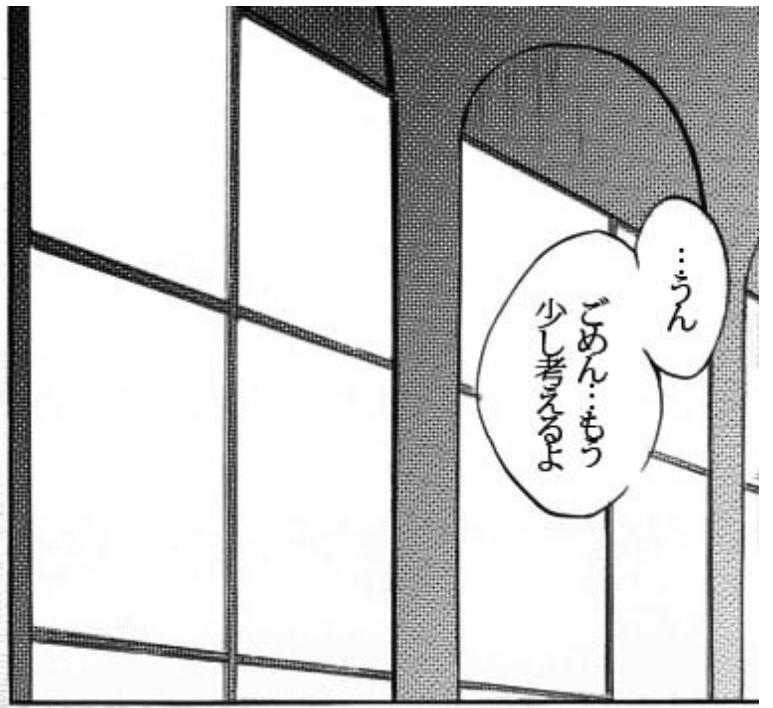


R
R
R



…ほ

ク
ク



...うん

ごめん...もう
少し考えよう

鏡にヒトツツタツ

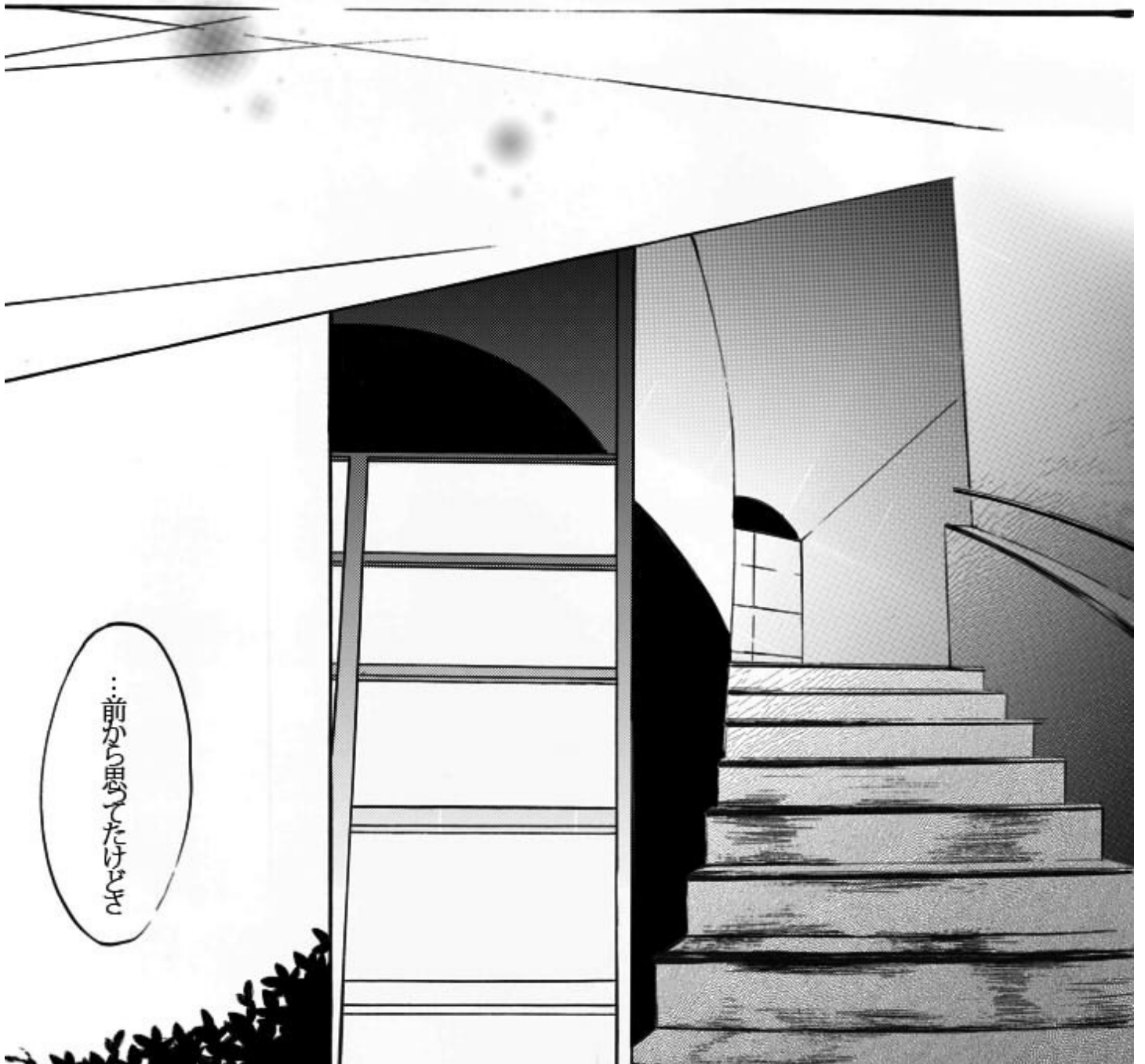
世界とよく似た影を映して
その反射をまっし胸に隠す



支点のない天秤に小さな言葉を乗せて
傾く角度を測れないまま
壊れて響く泣き声を知っている

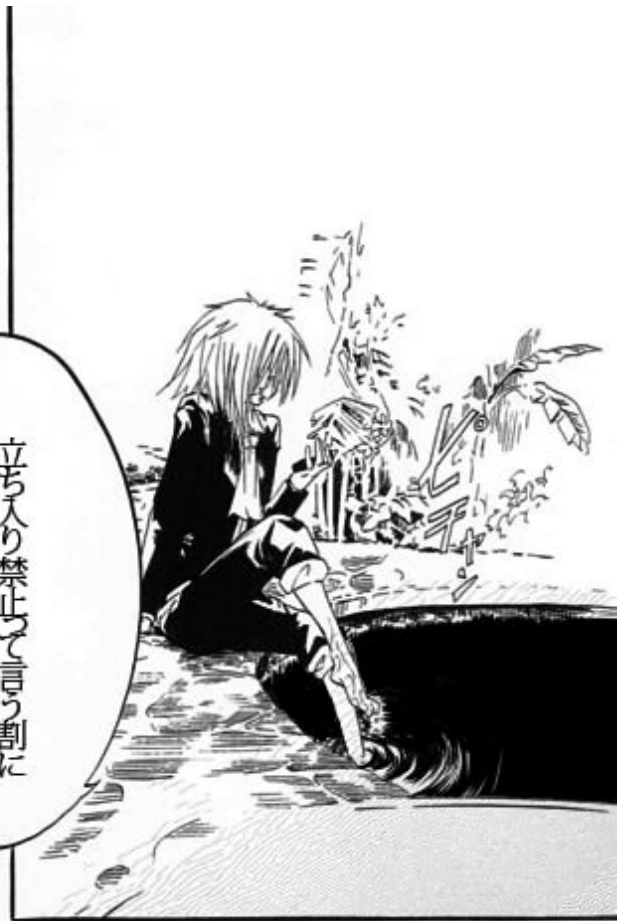
わかっている
落ちなくてはいけないと落とす

命綱に切れ目を入れて
見ることはないだろうあの道の向こうを
睨んで描いて遠く場所と決めた





立ち入り禁止で言う割に
悠もそこ好きたよな



…ひん
聞いていいか？



……

原因はお前か？



ここ数日

烏羽^{くわ}がいつにもまして
挙動不審だったが

スルーですか

…今度はお前か

おんね

…何を言ひ出すの
かと思えば

なんで花は
枯れるんだらう

そんなの
当たり前だ

これは焦燥だった

どんな見た目でも

どんな育て方でも

生きてゐるのなら
いつかは枯れる

はなの花詩



息をするのも惜しいと思ふ程に
言葉を降らせたのは





僕とお前は似ている

綴



…そう思っていたけど
根の所はまったく違うな

僕は

選択を強いられる人生も
この国も嫌いだ

けど選んだ…それは、自分の
意地や価値観を超えて
欲しいものがまたからだ

…ああそうだ

僕がずっと「変調」を迎えなかつた
のは、自分で意識的に選択する
ことを拒んでいたからだ

お前はどうかなんだ？
何を望む？

あらゆる感情を
甘受して

関係に荒波を
立てずに

人と諍いを
起したくないと願う

皇親の御姿に
なつてやる

けれど
その割に

周囲とはまるで違う
世界で生きていく

到底同意を
得られない質問を
繰り返して

人と自分は違うという
言い訳が欲しいのか？

自分は人と違うから、
だから「変調」が来ないと…
…けど僕にはそれ以上に





僕は真羽のようにお前の過去を詳しくは知らない

けれど、平気なふりをして乗り越えられてはいない

他の誰よりも自分を否定している

それくらい今のお前しか知らなくてもわかるよ



まるで

愛したのに
愛されなかった理由を

その姿は単なる強がりじゃないのか？

…お前の「本当」は
体何を望んでいる？

自ら削り上げて
いるように見える





世界の全てを
愛したい



誰も恨まない
嫌いにならない

何をきれても笑って
痛いところを吹き飛ばして

悩んでいる人には
真摯な態度で向き合おう

何にも怒らず
静かに前を見て

悲しい涙を誰も
流さないように

好きだと言われたら
ありがとってキスをして

嫌いだと言われたら
ごめんねって頭を下げる

転んだ人には
手をかし

歩けない人の
足になる

笑っている人とは
肩を組んで

世界が優しいもので
あると語りたい





そんなの…

偽善とも呼べない
独りよかりの妄想だ

みんな何かを選んで
同じだけ切り捨て
生きていく

全てを愛するなんて
神様にだって出来やしない



だから自分で
やるんだ



…そついう生き方を

していただけなんだ



それでも花は
枯れるんだよ



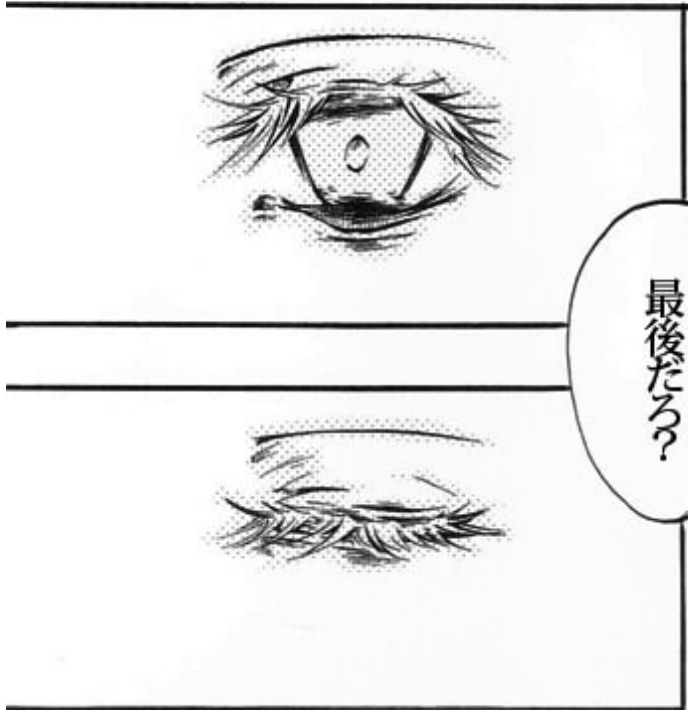
綴



なあ綴
キスをしよう

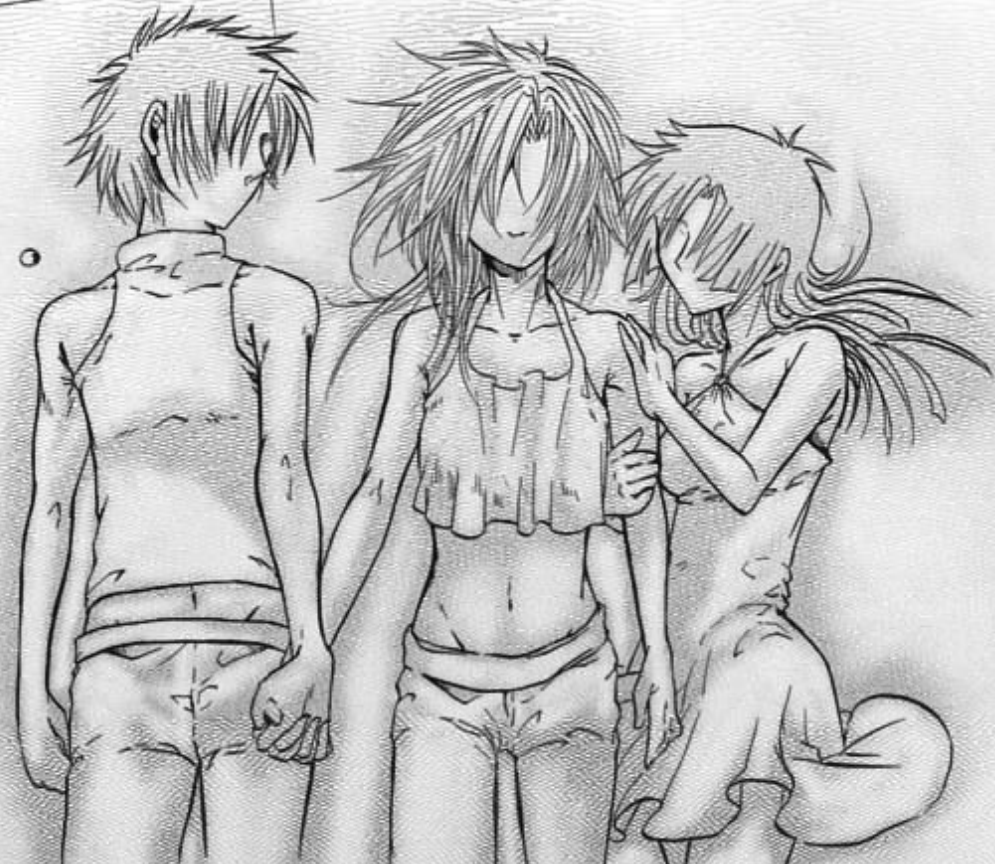


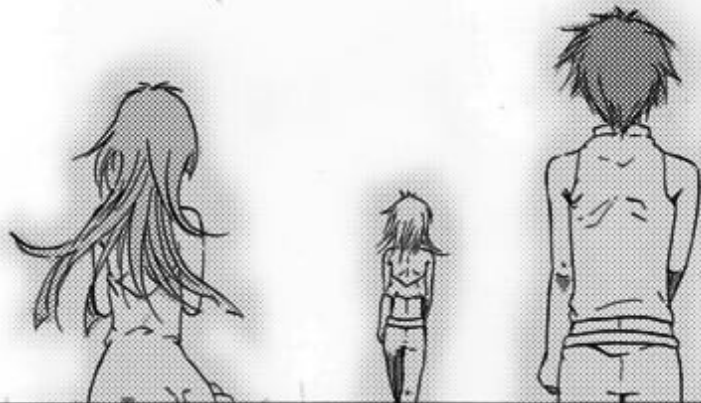
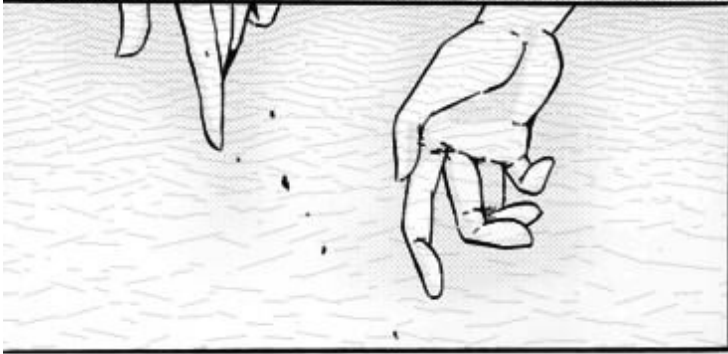
.....



最・後・た・ろ・？







それはもちろん
男女という二種類の
個体がないと
新しい命が生まれませんという
根本的な生態は他国の人間と
変わらないからだ

そもそも何故我々は
男と女に分かれるか

当たり前の
ことだが

一つの生命を生み出すために
僕たちは自分以外の、もう一つの
個体を選ぶことになる

…こんなことを
考えたことはないか？

もし仮に人が自分独りで
子供を生めるような
創りだったら

もしくは、もっと複数でしか
子供をなせない創りだったら

この世界の価値観は
一体どうなつて
いただろう

グ
マ
...



よく考えれば不思議
だと思わないか？こは
「選択の国」と呼ばれる程

自らの生き方を
選び取れる…それこそ
性別さえも

同性愛だって両性愛
だって別に珍しくない
…なのに

命を生み出せるのは
一人の女と二人の男から
だけだ…はは、遺伝子つ
ていうのはすごいな

人生の中に
どれだけ選択の自由があっ
ても、結局は他国と同じ道を
選ばなければ生き残れない
ことを知っている

…僕は感動するね



そう…感動して
まったく絶望するよ

それならば、選択の自由にどれだけの価値がある？

つて「変調」を遂げた僕が
言っても説得力がない
だろうけどな

それで…

ズゴ…

ズッ…



お前がさうして泣いてるんだぞ

綴が転校したことが
そんなに悲しいか

悲しいよー当たり前
じゃん…ッ

一緒にいられないことが
一番つらい…それにッ

…多分本当は、



あついで
あついで
あのとき、転校の話をしようとしていたのだから…
もし私が、綴の話をしっかり聞いていたら、何か…

よりもよつて両親の
所に帰るなんて…

ずっと虐待
されてたんだよ…!?

…
…
…全てを…
愛したかったんだろう

何かが、変わったのだろうか…?



…自分を傷つける
ものでも…



…それがあいつの
望みだったんだ…

綴にとつてこの世界のものほ
等しく大切なんだろう

僕もお前も



自らを傷つける
ものでもないも

だから求められれば
相手が望むままに
応えようとする

でも、特別を作れない
あいつは…きつと何処まで
いっても孤独なんだろうな…





まあフェアじゃない
から教えてやるよ

ああ…

え？



……

むい

なんだか悠の方が綴ること
わかってるみたいでムカつく…



ア

「はなの花詩だ
この間完結しただろう

これを良く読めば綴が
何を考えていたか、おおよそ
察しがつくぞ

はえっ!!?
はっ!!?

待て待て!!
一体どういふこと!!?
なんでそれと綴が…

僕も風紀委員の学外特別
活動者リストを見るまで
知らなかった



「はなの花詩」の作者は
音無綴だ



あれ…でも

じゃあなんで…
あんな質問したんだろ

自分で書いたのに…

オトナツツリ
音無綴

ツツリ
筒治里オト

ええええええっ!!?

まあ良く見れば
名前がアナグラムに
なっていたけどな

そんなんじや
わかんねーよ!!



お前がどんな質問を
されたか知らない
けれど…

個を愛するとはそれ
以外の何かを裏切ること
になるのかもしれない

誰も自分以外の
ものにはなれない

けれど何も選ばず
全てを愛したいと願う
ことは

だから、どんなに頑張っても
綴の想いを全て理解する
のは無理だろうよ

それは

この世界の理を、否定している
ことにならないか？…世界を
愛したいと願うお前は…

…ねえ

悠も

綴が好き
だったんでしょ…？

他の誰よりも、世界に対する
反逆者なのかもしれない

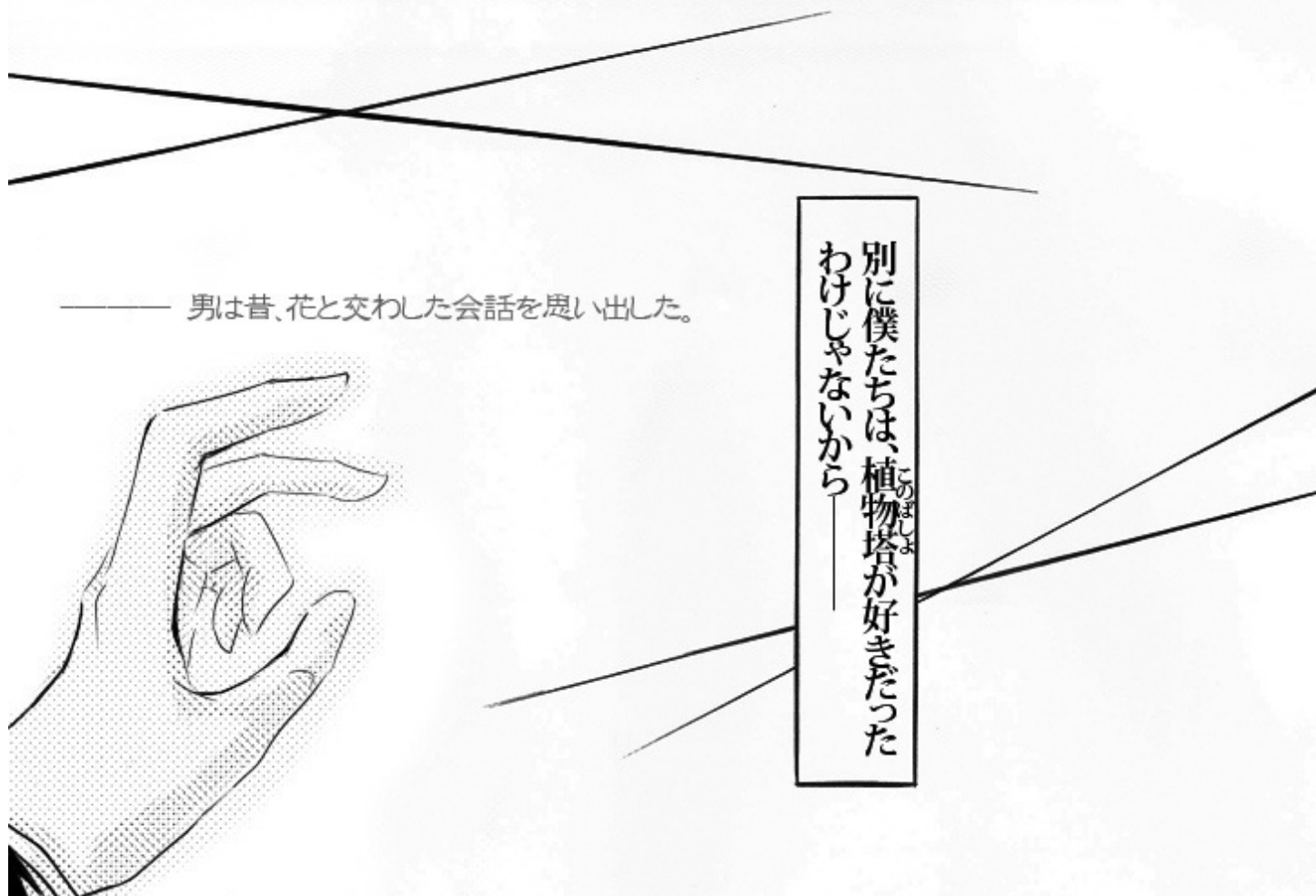
寂しくないの…？

…



きつときつとこは来なくなる

寂しいとばかり思っている



—— 男は昔、花と交わした会話を思い出した。

別に僕たちは、植物塔このほしよが好きだったわけじゃないから——

「僕は、愛することを無駄だと思ったことはないよ」

「でも、あなたは誰も愛さないのね」

「とても素敵で、素晴らしいことだと思うんだ」

「でも、愛さないのでしょうか」

「だって、誰も恨みたくない…恨まれたくない」

「とんだ臆病者ね」

「臆病者で良いんだ…この先独りでも構わない」

「馬鹿げてるわ」

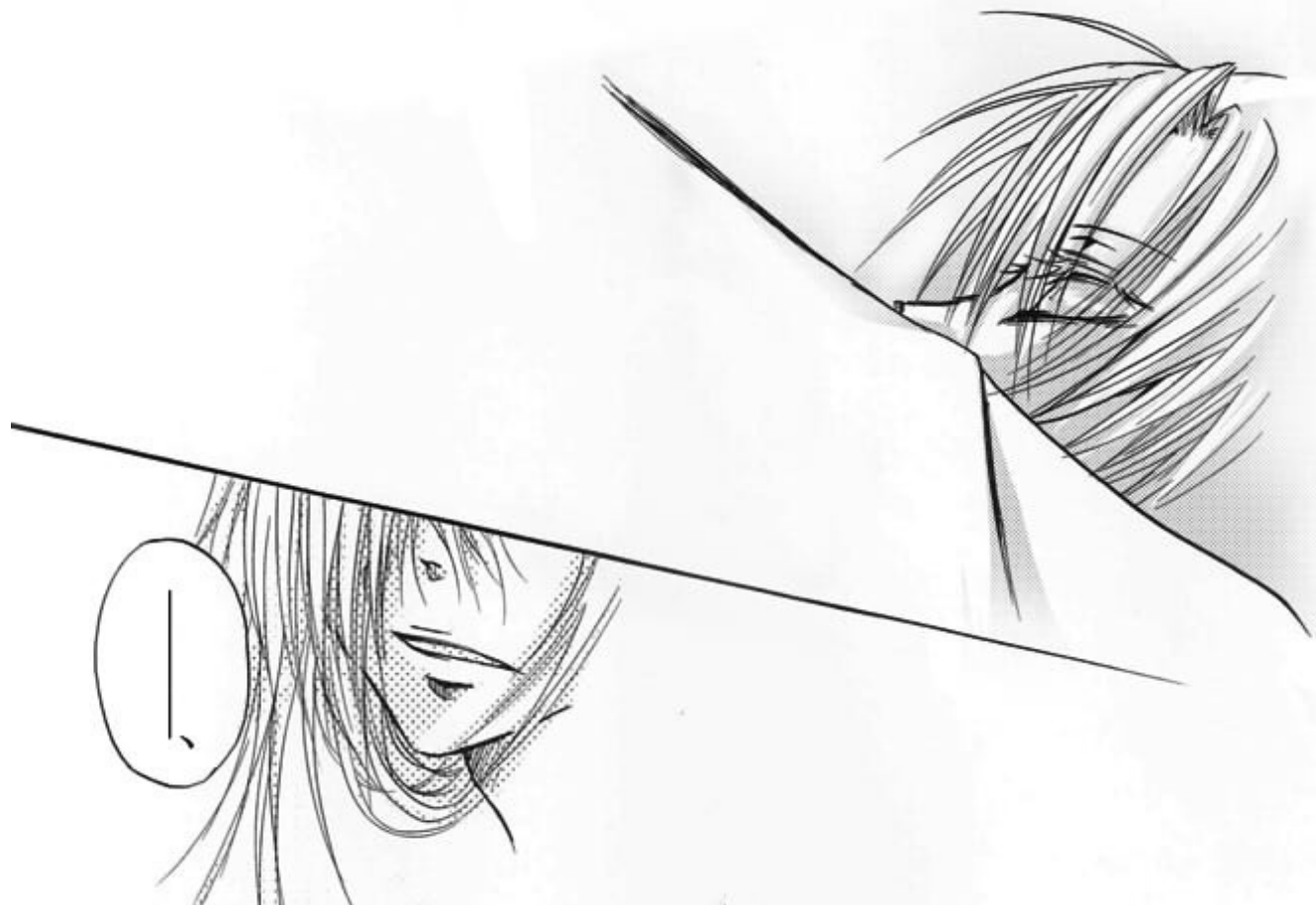
「誰かを恨むよりはマシだよ」



「…ねえ、知ってた？」

「何をだい？」

「あなたが、愛してくれようがくれまいが、
私はいつか枯れるのよ」





愛してる

選択の国の独唱者

<http://p.booklog.jp/book/79863>

あとがき：http://randomwalk.yangotonaki.com/mangaseisakudp_m_aki_atogaki.html

著者：Random Walk

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/random-walk/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/79863>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/79863>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパバー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ